

こどもまんなか社会—5歳児健診をこどもたちにどのように伝えるか— Web絵本「みんなでいこう！ごさいじけんしん」制作に関する研究

研究代表者 永光信一郎（福岡大学医学部小児科学講座）
研究分担者 前垣 義弘（鳥取大学医学部脳神経医科学講座脳神経小児科学分野）
研究協力者 小枝 達也（鳥取県立総合療育センター）
研究協力者 小倉加恵子（鳥取県子ども家庭部/倉吉保健所）
研究協力者 是松 聖悟（埼玉医科大学総合医療センター小児科）
研究協力者 島袋林秀（国立成育医療研究センター）
研究協力者 岡 牧郎（国立成育医療研究センター）

研究要旨

「こどもまんなか社会」が目指す方向性として、政策決定の場や身近な環境において、こどもの意見を聴き、対話しながら施策を進め、こどもの最善の利益を優先することが掲げられている。令和6年1月に、5歳児健康診査支援事業が開始されて以来、5歳児健康診査（以下、5歳児健診）の実施にあたっては、医師確保のあり方、健診方式、フォローアップ体制の充実などが中心に検討されてきた。一方で、5歳の幼児に、5歳児健診をなぜ実施するのか、5歳児健診の結果をどのように伝えるのか等は、議論の中心には置かれていなかった。5歳児では、社会性や調和的な行動が育まれる時期であると同時に、自己への関心も高まる時期である。この時期の行われる健康診査（健診）は、自分自身の健康を考える最初に機会になることが考えられる。5歳児健診の意義をこども自身が保護者と一緒に考える機会として、Web絵本を制作したので報告する。（絵本閲覧サイト：<https://storybook.gosaiji-kenshin.com/>）

A. 研究目的

母子保健医療対策総合支援事業のひとつとして、令和6年1月から5歳児健診がこども家庭庁の補助金事業で開始となった。医師確保のあり方、健診方式、フォローアップ体制などの実施体制が、関係機関の中で検討され続け、令和6年度実施率は全国自治体の15%であったが、令和7年度には27%まで上昇した（研究班アンケート結果から）。健診体制の整備が進む一方で、こども達に対して5歳児健診の意味をどのように伝えたらよいのかも議論されるよう

になった。「こどもまんなか社会」は、こどもに関わる政策決定の場において、こどもの意見を反映させながら、こどもの最善の利益を優先することが掲げられている。今後、5歳児健診は、こどもが自分のからだを大切にする気持ちを育む場になると考えられる。5歳児健診の意義をこども自身が保護者と一緒に考える機会として、Web絵本を制作した。

B. 研究方法

Web絵本制作のきっかけとして、5歳児健診会場で、保護者に「今日は、お子さんにどのよう

に5歳児健診を説明されて、連れてこられましたか？」とインタビューを行った。保護者より、「健康診断の絵本“10匹のおぼけのけんこうしんだん（作・絵：にしかわ おさむ 出版社：ひかりのくに）」を読み聞かせて連れてきました」といった意見も得られた。健診内容の一部を紹介することと、健診は怖いものではないことと、を伝えることをコンセプトとして、ポータルサイト運営会社（株式会社 stans）と協議して、親子で読み進めることができる Web 絵本を制作した。

C. 研究結果

Web 絵本 (<https://storybook.gosaiji-kenshin.com/>) は、5歳児健診ポータルから閲覧可能である。Web 絵本の概要は、受診者のこどもの名前を保護者がWeb絵本に入力を行うことから始まる。

こどもが「5さいじけんしん？」と首をかしげる場面から始まり、保護者が、「5さいになってどんなことができるようになったか みてもらうんだよ」と語りかける。健診会場には、保健師さんと、動物のお友達がいる設定になっている。保健師さんから「きょうはねみんなが どれだけせいちょうしたかみせてほしいの」と説明を受け、運動遊び（片足立ち）と言葉遊び（しりとり）を行うことが伝えられる。「じょうずにできなくてもまちがっちゃってもだいじょうぶ」と保健師から言われ、こどもや動物たちは安堵を示す。

片足立ちが上手にできて、褒めてもらえて喜ぶネコ、うまくできるか不安がるゾウ、思ったよりも簡単だったと安心する主人公（受診者）。片足立ちが得意なフラミンゴを見て、「とくいなことにも ながてなことも みんな それぞれちがっていいんだ」「じぶんのやりかたでいいんだ」と気づく。

しりとりでは、オウム返しで、懸命に答えようとするオウム、テンポよく楽しむネコ、ゆっくり答えても大丈夫だと気づくゾウ、わからな

いと戸惑う主人公。健診医からは、「わからないって いえるのも すてきなちからだよ」と教えられる。

絵本のエンディングには、健診医から、ひとりひとりちがっていいんだと伝えら、保護者は、5歳になったこどもをみて、すごいなと感じる。そして、こどもや動物たちは、ドキドキした5さいじけんしんを楽しく終えることができた。Web 絵本のスクリーンショットを次ページに示す。

D. 考察

本研究で制作した Web 絵本「みんなでいこう！ ごさいじけんしん」は、こども家庭庁が推進する「こどもまんなか社会」の理念を、母子保健の現場において具体化する試みである。令和6年月の事業開始以来、5歳児健診の実施率は着実に上昇しており、全国的な実施体制の整備が進んでいる。しかし、これまでの議論の多くは、医師の確保やフォローアップ体制といった「実施側（大人側）」のロジスティクスに終始しており、健診の主体である「こども自身」がどのようにその場を捉え、理解するかという視点が欠落していた。

健康診断の絵本“10匹のおぼけのけんこうしんだん（作・絵：にしかわ おさむ 出版社：ひかりのくに）”のストーリーは、おぼけを育てていたお爺さんが怪我をして入院した際に、おぼけ達が病院に見舞いに行き、誤ってこども達の健康診断会場に入室して健康診断を受ける羽目になる。おぼけという本来怖がられる存在が、楽しく健診を受け、子ども達は安心を得る。そして、子ども達はおぼけの健康診断を通して（おぼけの心臓の音は？おぼけに歯はあるの？）、自分の体への興味・関心を持つようになるというメッセージが込められている。



5歳の幼児期は、集団生活における社会性や調和的な行動が育まれる一方で、自己への関心や客観的な視点が急速に発達する重要な時期である。この時期に行われる健診は、こどもが自分のからだや成長を意識する「最初の間」となり得る。その意識が、学童期、思春期、成人期と続いていくことが期待される。

本研究では、絵本が受診前のプレパレーションに有効であり、健診で行われる「片足立ち」や「しりとり」といった項目を、「成長を見せる遊び」として描写し、「上手くできなくても大丈夫」というメッセージを保健師や医師の言葉として伝えることで、こどもの受診に伴う不安を軽減している。特に、しりとりの中で「わからないって言えるのも素敵な力」と肯定する描写は、ありのままの自分を認める意義を象徴している。また、動物のキャラクターを通じて「得意なことも苦手なことも、みんなそれぞれ違っていい」という多様性を提示することは、こどもの自己肯定感を育むことになる。

今後は、本 Web 絵本が実際の健診現場でどのように活用され、こどもの不安軽減や保護者の健診満足度に寄与したかを定量的に評価する必要がある。

E. 結論

こどももまんなか社会の趣旨に即して、5歳児健診の意義をこども自身が保護者と一緒に考える機会として、Web 絵本を制作した。

F. 研究発表

1. 論文発表

1. 永光信一郎、小枝達也、小倉加恵子、前垣義弘、他. 5歳児健診の全国展開に向けた自治体の課題に関するアンケート. 日児誌 129:1157-64:2025.

2. Yoshizuka T, Ozono S, Ishii R, Obara H, Murotani K, Nagamitsu S, Yamashita Y, Mizuochi T. Psychological Distress among Japanese University Students after Parental Bereavement. *Kurume Med J.* 2025 Nov 13;71(3.4):127-137.
3. Inoue T, Iwanami J, Kuroiwa C, Mizukoshi M, Togashi K, Hatayama Y, Nagai A, Tomoda A, Woods DW, Ozawa H, Deguchi K, Hoshino K, Kobayashi M, Nonaka M, Matsuda N, Ishii R, Otani R, Nagamitsu S, et al. A randomized clinical trial of remote Group-Based comprehensive behavioral intervention for tics. *Eur Child Adolesc Psychiatry.* 2025 Nov 15.
4. Sakaguchi T, Funakoshi S, Kawano K, Ueno T,,, Nagamitsu S, et al. Non-fasting and fasting serum triglyceride concentrations and new-onset hyperuricemia in the general Japanese population: ISSA-CKD study. *Sci Rep.* 2025 Feb 17;15(1):5764.
5. Koga N, Yatsuga S, Kubota K, Niimi T, Inoue T, Nagamitsu S. Eosinophilic gastroenteritis in a 14-year-old patient with Noonan syndrome with a PTPN11 variation: a case report. *J Med Case Rep.* 2025 Jun 13;19(1):273.
6. Urushiyama D, Kiyoshima C, Hirakawa T, Shibata M, Imi S, Kurakazu M, Miyata K, Setoue T, Nagamitsu S, et al. Assessment of intra-amniotic colonization based on copy numbers of 16S ribosomal deoxyribonucleic acid: A diagnostic and prognostic study. *J Obstet Gynaecol Res.* 2025 Feb;51(2):e16223.
7. Nagamitsu S, Okada A, Sakuta R, Ishii R, Koyanagi K,,, et al. Usefulness of Interventions Using a Smartphone Cognitive Behavior Therapy Application for Children With Mental Health Disorders: Prospective, Single-Arm, Uncontrolled Clinical Trial. *JMIR Form Res.* 2025 Jul 29;9:e60943.

2. 学会発表

1. 永光信一郎 (総合シンポジウム) 健やか親子21での課題の解決に向けて・成育医療等基本方針について／第128回日本小児科学会学術集会 (2025.4.20、名古屋)
2. 永光信一郎 新たな健診—5歳児健診—その意義と効果／福岡県耳鼻咽喉科・頭頸部外科学術講演会 (2025.5.17、福岡)
3. 永光信一郎 (教育セミナー) 5歳児健診

- の展望 ―悉皆健診と抽出健診―／永光
信一郎 第 36 回日本小児科医会総会フォー
ラム（2025.6.14、兵庫）
4. 永光信一郎（シンポジウム）小児科医が
健康な思春期のこどもと接するとき ―
何を伝える―／第 36 回日本小児科医会総
会フォーラム（2025.6.14、兵庫）
 5. 永光信一郎（特別講演）こどもの未来の
ために ―5 歳児健診の意義―／第 20 回
日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会
（2025.6.20、岡山）
 6. 永光信一郎 5 歳児健診をすべてのこど
もに ―こどもと小児科医の未来のため
に―／日本小児科学会北海道地方会第
322 回例会（2025.6.22、北海道）
 7. 永光信一郎 待ったなし！！5 歳児健診
のすべて／第 640 回大分県北部地区小児
科医会講演会（2025.6.26、大分）
 8. 永光信一郎 1 か月児健診の質向上をめ
ざして ―すべての専門科による多職種
連携―／第 41 回埼玉県母性衛生学術総
会・学術講演会（2025.11.8、埼玉）
 9. 永光信一郎 こどもまんなか社会 ―5
歳児健診、こどもにどう伝える？―／第
190 回日本小児科学会鹿児島地方会
（2026.2.1、鹿児島）

G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし